

## 6. 鳥取市の観光資源の活用について（垣屋克吉 / 社会人）

### （1）鳥取市の観光資源と今後の展望について

#### 垣屋克吉議員

私からは、鳥取市の観光資源の活用について質問したいと思います。

砂像の常設展示場などの鳥取砂丘周辺の整備をしていくという話が市長の所信表明にもありましたが、まず、いまだに県外者から、鳥取市には砂丘以外に何があるのかとよく聞かれるのが多いのですが、広報の面でいろいろと努力されている中、思うような成果が出ていないように感じます。集客数の面で鳥取砂丘が優先されるのはわかりませんが、ほかにも観光資源があるのに、分散させるようにしなければ、地域経済は一向に潤わないと思います。

先ほど説明がありましたが、グルメ以外の鳥取市の観光資源について、今後どのような展望を考えているのか、お尋ねしたいと思います。

以上で登壇での質問といたします。

#### 竹内市長

垣屋議員の質問にお答えしたいと思います。

鳥取市の観光資源について、今後の展望をどのように考えているかということであります。

これまで鳥取市の観光資源として、砂丘とか温泉とか、そういったことが上げられてきていると思いますが、現在、その幅について、観光資源として位置づけられているものはどんどん広がってきていると考えています。砂丘に関しては、2009鳥取・因幡の祭典などで砂像という、砂の彫刻が非常に大きな要素として、魅力を持った観光資源として位置づけ、効果を上げてきたと思いますし、それらを受けて、1期から4期までの砂の美術館を受けて、ことしの4月からの砂の美術館、新たな全天候型の展示施設がオープンすることになりました。しかし、それが単に砂の彫刻がそこにあるというだけではなくて、山陰海岸ジオパークという位置づけも出てきておりまして、そういう中で、例えばジオパークとの関連であれば、この砂の美術館があって、鳥取砂丘の特別保護地域の馬の背などの砂丘の自然そのものがある、それ以外に白兔海岸とか湖山池とか雨滝とか扇ノ山とか、いろんな市内の各地域がジオパークの位置づけの中で語られ、あるいは案内されるということが関連づけられて紹介されるということが出てきているわけです。

そういったことと同時に、鳥取市において、一例であります、コンベンションとかイベントとか、そういったこともどんどんふやしてきておりまして、コンベンションの開催において、平成22年度では80件、3万229人の参加があったと、こういうことがその80

件だけで上げられていますが、この80件はそれぞれ市としても支援をしてきた部分でありますので、そういった取り組みが鳥取への観光客の誘客を呼んでいるということになります。

鳥取砂丘というものは、全国的にも知られている鳥取市の代表的な観光地で、まずそこに磨きをかけることによって、ほかの観光地、観光といっても見たりするだけではなくて、買い物も一つの観光と位置づけられていますが、あるいは食事をするのも一つの観光活動であります。賀露西浜のかるいち、わったいなというところへの誘客につながると、あるいは旅館など、温泉の活用と、それから例えば砂丘でのイリュージョンなどがつながるといった、砂丘とつないでの観光ということが一つの戦略でもあり、展開のかなめに置かれているということについても申し上げておきたいと思えます。

いずれにいたしましても、ことし行われるイベントなどを通じまして、多くの観光客を呼び込み、また、山陰海岸ジオパーク、砂丘というものを核とした他の観光地への波及ということを経営として、鳥取市の観光の今後の展望を切り開いていきたいと考えているところであります。

平成23年を見ても、やっぱり砂の美術館がないと砂丘に来た観光客の数も減っておりますし、いつか200万人ぐらいまで来ていましたが、私の手元の資料では122万8,000人という数字がございますが、そういうふうに落ち込むわけですね。これはしかし砂の美術館ができ、鳥取市全体のいろんな条件が変わってくると、またこれも200万人を超えるような水準に上がるものと考えております。

そういう意味で、現在の存在している観光資源に磨きをかけるとか、あるいは情報発信をしっかり充実して展開するというので、今後、明るい展望が持てると考えております。そういう方向に取り組みを進めていくことにしたいと思えます。

## (2) 国際マンガサミットにおける鳥取市での取り組みについて

垣屋克吉議員

ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

近年、世間でサブカルチャーがブームになっていますが、来年開催される国際マンガサミットに対して、鳥取市としてどのように取り組んでいくのかお伺いします。

このマンガサミットを通して世界に鳥取を発信できるいい機会になると思うのですが、鳥取市民に浸透していないように思います。主に広報活動を報道されているのは県ですが、そ

れでも周りの反応はいまだに薄いです。一番市民に近い市が動いていないこの状況はどうなっているのでしょうか。最近になって「とり漫」という漫画が発行されていますが、少しは反響で周知され出してはきましたが、一過性にすぎないと思います。各観光名所を漫画形式で紹介するというアイデアはよいのですが、若者からは、作者のことを全くもってと言っていいほど知らないという意見もあり、興味を持ちにくいのではないかなと思います。

事例ですが、米子市では、サブカルチャーのイベントをきっかけに起業した若者を行政が支援して、新たな集客源を生み出そうと動いています。世間では御当地アイドルやコスプレなど、イベントとの抱き合わせによって集客活動を展開していますが、鳥取市としてこのサブカルチャーである漫画がメインなマンガサミットに対してどのように取り組んでいくのかお尋ねしたいです。以上です。

#### 竹内市長

国際マンガサミット鳥取大会が平成24年度に開催されると、メイン会場は米子の方での開催が予定されておりますが、これはそのサミットの鳥取大会という一つのイベントでありまして、まんが王国ととりの建国イヤーという位置づけも県は打ち出しているわけです。まんが王国ととり、鳥取県のことですが、鳥取県全体がまんが王国という、そしてそれは建国イヤーという、建国年だということは、これからずっとそれが2年目、3年目となっていくということでもあります。

鳥取市は、当然このまんが王国建国の年ということをお鳥取市における漫画関連の取り組みの一つの大きな弾みとしていきたいと考えております。既に昨年からイベントとして、鳥取市の漫画家を紹介するような展示をわらべ館で行っておりますし、また、谷口ジロー氏の作品の原画展を2度にわたって市内で開催をしております。そういったことと関連して、鳥取市出身の谷口ジロー氏の朗読劇があったり、映画化に向けた取り組みがあったり、いろいろ動き出しているという事実があります。また、「父の暦」という代表作の一つであり、鳥取大火などが描かれた鳥取市が舞台の作品ですが、これの重版、さらに刷り増しということですが、重版を出してもらおうように小学館に働きかけるなど、これまで鳥取市として取り組んできたところであり、これによって公民館の図書館とかそういったところ、小学校の図書館、そういったところにも本を配置しているという状況があります。

そのほか、最近のお話では、先ほどちょっと触れましたが、仁風閣を舞台に撮影された「るろうに剣心」の映画口ケ写真展をこれから予定していることもありますし、仁風閣でのコスプレイベント、これも既に一度そうした企画イベントがされたようではありますが、今後

も続けて行われる予定があります。鳥取環境大学での漫画公開講座とか、そういった環境大学での漫画に関する取り組みも出てまいります。

そういったことで、鳥取市においても漫画に関連する取り組みはこれまでも、あるいはこれからもだんだんふえていき、多くの方に鳥取出身の漫画家、あるいは鳥取で漫画に関心を持った方が県内の漫画家の作品なんかに触れることができるようにしたいと考えております。

鳥取市としてもいろんなイベントを今後、県が展開する「まんが王国とっとり建国記念国際まんが博」といったイベントの中で取り組みを展開したいと考えておりまして、まだ余り内容が説明できるほど具体化しているわけではありませんけれども、今後とも、建国の初年度ということで、具体的なスタートが図られて、来年以降にもつながっていくような取り組みをしたいと考えております。

いずれにしても、このまんが王国、まんが共和国であろうかという意見も見たことがありますが、いずれにしても東部の地域、鳥取市の地域で漫画についての取り組みや、出身の作家の方、あるいは鳥取市で活動しておられる漫画家の方もいらっしゃる中で、これから環境大学も含めて漫画のイベントや取り組みを充実していくことを具体的に積み上げていきたい、積み重ねていきたいと考えておりまして、これは改めて何かの機会にその全体像がわかるようなものを市報などでも出していくなどして、市民の皆さんによく御理解いただけるように説明をさせていただこうと私は考えているところであります。

### **(3) 城下町とつとりを活かした取り組みについて**

#### **垣屋克吉議員**

御答弁ありがとうございました。

重ねて質問いたします。

鳥取市には、いまだ城下町としての風景が残っていますが、鳥取市はこの城下町の視点のイメージをどのように生かしていくのかお伺いします。

中国地方を例にとると、山口県萩市では、城下町としての景観を生かしたまちづくりが行われていました。萩市は城下町のイメージに合った整備をして、城下町には商店街を配置し、人を集客できる観光名所として構築されていました。松江市では、お城から商店街へ人の流れが行くように動線を確保し、月1回であったり年1回、商店街で大きなイベントをすることによって地域の活性化を図っています。京都のように大きな規模で条例を制定して町並みを守っている地域もありますが、鳥取市ではどのような取り組みをしておられますか。

また、鳥取市の景観の整備、先ほど都市整備の方からもありましたが、久松山を臨む風景、しかし、これもマンションなどの大型の建物が建っているために、一部見えないところもできてきて、台なしにはなっていますが、そういった景観の整備を行うのはもっともだと思いますが、もう少し観光名所の動線を考えたまちづくりを視野に入れて考えてほしいです。風情を楽しむというのは観光名所の必須条件だと思いますが、その名所を回るのに苦労するといった現状をまず考えていただきたいと思います。個人的な意見ですが、史跡とサブカルチャーのコラボレーションなどもおもしろいと思います。

これらを踏まえ、鳥取市として城下町を生かした取り組みをどう考えているのかお尋ねします。

#### **竹内市長**

先ほど都市整備部長からも少し紹介もありましたので、中身については部長から答えてもらおうと思いますが、御質問の城下町としての風景が残っている。実は江戸時代の城下町の町割りと言われるような状況が今の中心市街地の中にまだ見受けられるということはよく言われている点であります。したがって、そういったことも念頭に置きながら、城跡周辺地域の景観を大切に、もっと改善をしていくというようなことも含めて取り組みが必要だと思います。

また、アクセスに関してもちよっとお話がありましたが、100円循環バスですね、くる梨と言っていますが、こういったものをお堀のところまで、初めはそういうルートでなかったのですが、持っていくことにして、実際には博物館、仁風閣、あるいは久松山の登り口の方につなげていくようなこと、あるいは武道館の方にもう一つの停留所を設けるなども行ってきたところであります。

城跡周辺地区としての整備なり観光ルートとしての考え方につきましては、担当の都市整備部長からお答えいたします。

#### **大島都市整備部長**

お答えいたします。

まず、城下町としての風景を生かしていくことについてでございます。先ほど申し上げました内容につきまして、補足させていただきたいと思います。

まず、鳥取城跡周辺地区につきましては、平成23年5月に設置した有識者、公募委員等から成る現本庁舎周辺地域活性化検討委員会において、平成23年11月の中間報告で、「多様な歴史、文化、景観等の資源を有する、交流の舞台」という方向性をいただいております。

ます。具体的には、観光資源となり得るような施設が多く立地していることは、本地域ならではの貴重な資源であり、今後のまちづくりに生かしていくべきである。このことを踏まえ、鳥取城跡等を中心とする歴史、文化や久松山を背景にした良好な景観等の資源を生かしながら、人が集まり、回遊する環境づくりに重点を置くことにより、交流の舞台となることを目指すべきであるというものでございます。

また、こちら先ほどの補足になりますが、平成23年度からスタートした第9次鳥取市総合計画の施策の一つとして鳥取城跡観光の推進を掲げており、現在、庁内関係課で組織する中心市街地再生本部の城跡観光部会におきまして、鳥取城跡観光推進計画素案について検討しているところであり、今年度中に公表し、市民の皆様の御意見をいただくこととしております。当面は、お堀端を中心とした取り組みといたしまして、将来的には橿谿公園まで広げていくことを考えております。

また、県内外からの観光客を城跡へ呼び込むために、歩行者を鳥取駅から城跡まで案内、誘導するための公共サインの整備や、鳥取自動車道、山陰自動車道などの利用者を城跡まで誘導するための案内看板の設置についても検討を行っております。

続きまして、風景を守るための取り組みでございます。

鳥取市には、鳥取砂丘を初めとしまして日本海や湖山池、千代川、久松山など、水と緑豊かな自然景観が多くございます。また、鳥取城跡、鹿野城下町、因幡国庁跡など多くの歴史的、文化的景観を残しており、市民、そして行政がこれらの豊かな資源を後世に継承し、保全、活用していくため、平成20年3月に鳥取市景観計画を策定しております。この計画の中で、鳥取城跡などの歴史的、文化的景観形成資源及び久松山山系と一体となって景観をつくり出している地域を景観形成重点区域に指定いたしまして、景観に特に大きな影響を及ぼすと考えられる規模の建築行為等を対象として、その行為の制限を定めております。具体的には、一定規模を超える建築物の新築、増築、工作物の新設、改築等の事前の届け出や色彩等についての一定の制限などがございます。

また、先ほど鳥取城跡観光推進計画素案の中で、お堀端を中心とした景観整備から将来的には橿谿公園までと申し上げましたけれども、それに加えまして、鳥取城、鳥取藩に関連する寺社、建物などを有機的に結ぶ観光ルートの設定についても御指摘のとおりさらに検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

**垣屋克吉議員**

御答弁をありがとうございました。いろいろと質問しましたが、きょう言っていた

ことを実現できるように、さらに一層邁進してほしいと思いますので、お願いします。

以上で終わります。